

えびはら直矢市政報告

発行人 海老原直矢

〒362-0026 上尾市原市北一丁目14番地9 TEL. 048-716-7323

E-mail. ebihara116@gmail.com <https://www.ebihara-naoya.com/>

2024年9月号
2024.12.22



空き家・空き地の問題を質問 民間の知恵を活用した課題解決を

不動産事業者と連携した空き家・空き地対策の体制整備を提言

今回の一般質問では、市民の皆さんから多くのご意見が寄せられている空き家・空き地対策について質問をしました。

この質問では、相続などによって所有者に利活用の意思がない空き家や空き地について、不動産事業者と連携をして、利活用の提案を市の側から行うことが必要ではないかということを提案しました。

空き地対策はまだまだ取り組みが進んでいませんが、先進自治体である神戸市では補助金を出すとともに、アドバイザーの派遣も行っています。これらの例を参考にしながら、上尾市としての取り組みを求めています。



データでみる

自治体における空き地対策

神戸市では、空き地の活用促進に向けて、空き地をコミュニティ提案など地域利用する際に「神戸市空き家・空き地地域利用バンク」に登録した物件所有者などに対し、補助を行っている。

〈初期費用補助〉

仲介手数料・所有権移転登記費用: 50万円

〈維持費用補助〉

固定資産税等の相当額: 最大3件・合計100万円まで

〈整備費補助〉

整備工事等: m²辺り9千円+30万円、最大100万円

〈アドバイザー派遣〉

整備等にあたっての助言のため専門家を無料で派遣

(参照)国土交通省『空き地活用等の事例報告』

一般質問でのやり取り

問 空き家について、利活用のない所有者に対して働きかけをすべきと考えるがいかがか。

答 空き家に関して、利活用の意思がない所有者に対して意識情勢を図っていくことは重要な取り組みであると認識している。

問 空き地対策について、市に対して相談があった場合にはどのような対応をしているか。

答 『上尾市空き地の環境保全に関する条例』に基づき、周辺住民からお困りの苦情や問合せがあった際には、土地所有者に土地を適切に管理するよう指導・助言を行っている。

問 先進自治体では空き家と空き地の利活用を1つの部署で対応するところからスタートしているが、上尾市としての見解は。

答 まずは県内の自治体において、空き家等に関してはどこの部署がどのような取り組みをしているのは、その実態把握に努めていく。

問 空き家・空き地について、不動産事業者と連携してプッシュ型で利活用の提案などを行う事業を検討していくべきと考えるがいかがか。

答 空き家に関しては、地域の実態に応じて様々な取り組みが行われているものと認識しているため、市として先進地の事例研究を進めながら、今後不動産事業者などどのような対応が図れるか検討していければと考えている。



質問の様子は市議会ホームページでご覧ください。

https://smart.discussvision.net/smart/tenant/ageo/WebView/rd/council_1.html



市民の声を形に

令和6年12月追加補正予算

12月16日、市長から追加議案として『令和6年12月追加補正予算』が提出されました。今回の補正予算は国の物価高騰緊急支援給付金と自治体が活用である臨時交付金に基づいた独自事業として給付金を支給するものです。



補正予算の内容

住民税非課税世帯に対する物価高騰緊急支援給付金の給付

物価高騰等に直面する低所得世帯(令和6年度の住民税が非課税の世帯)に対し、「物価高騰緊急支援給付金」として1世帯当たり3万円、世帯員である18歳以下の子ども1人当たり2万円を加算して給付

8億
9万7千円

「物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金」を活用した上尾市の独自事業として住民税均等割のみ課税世帯に対する物価高騰緊急くらし支援給付金の給付

物価高騰等に直面する低所得世帯(令和6年度の住民税が均等割のみ課税されている世帯又は家計急変世帯)に対し、「物価高騰緊急くらし支援給付金」として1世帯当たり1.5万円、世帯員である18歳以下の子ども1人当たり1万円を加算して給付

9,144
万円

補正予算に反対をし、反対討論を行いました。



反対理由

- ①対象設定の適切性について、特に市の独自事業についてはより生活に困窮する世帯への支援を行うことも検討する必要がある。
- ②近年毎年度同種の交付金に基づく給付があることを踏まえて、次に備えた対象の検討をこれまでも求めてきたにもかかわらず、今回も十分な検討は行われず、給付で救われるべき人に心を寄せていない。
- ③物価高騰によって生活の質がより深刻に低下している方に適切に支援を行うために国の交付金をどのように活用するかを検討すべきだが、上尾市は「検討する時間がないから仕方ない」として従前の施策を繰り返すのみである。

えびはら直矢プロフィール

昭和62年12月3日生まれ。
 ●上智大学法学部卒
 ●首都大学東京社会人類学教室修了。
 国連 UNHCR 協会職員などを経て、
 衆議院議員公設第一秘書を務める。

大学在学中に市民団体を設立し、子どもたちの放課後を考える団体など複数の団体の運営に携わってきた。2017年に上尾市議会議員に当選(現在3期目)。都市整備消防常任委員会委員、議会運営委員会委員、上尾、桶川、伊奈衛生組合議員、環境審議会委員など。
 家族:妻、長男(9才)、長女(8才)、次男(6才)

市政へのご意見やお困りごとがございましたらお気軽にご連絡ください →FAX 048-677-1676

お名前

ご連絡先

ご意見やお困りごとなど